

時代に足跡を記(しる)した大先輩・その3

舞踏家・暗黒舞踏の創始者**土方 巽 (ひじかた たつみ)**

動きの激しい西洋のダンスが明治時代に日本に入ってきたときに、「踏」という漢字がとんとんと足踏みすることを意味していることから、最初「舞踏」と訳したようですが、その後坪内逍遙の造語「舞踊」が使われるようになり、現代ではダンスは舞踊と訳されています。

現在の舞踊界で「舞踏」とは、土方巽を創始者とする「暗黒舞踏」を指します。

土方巽が「暗黒舞踏派」を名乗った時、剃髪・白塗り・裸体で踊るため、舞踊界から異端視されましたが、1970年代初の海外公演から、1980年代に入ると、天児牛大が率いる「山海塾」のワールドツアーが大きな成功を収めるなど、「暗黒舞踏」は日本独自の伝統と前衛の混ざり合ったダンスのスタイルとして、世界的に注目を浴び、マスコミでも紹介され広く認知されるようになりました。

暗黒舞踏が海外ではButohと呼ばれていたことから、日本でも単に「舞踏」と呼ばれるようになりました。

海外での評価が逆輸入された形で、日本でも再評価されるようになりました。

1986年に土方巽が没した後も土方巽の弟子や弟子から影響を受けた人々により発展を続けています。

※土方 巽の年譜による足跡

- ・1928年－秋田県南秋田郡旭川村泉(現・秋田市保戸野八丁)に生まれる。九日生(くにお)と名づけられる。生家はソバの製造販売とソバ屋を営む半農。
- ・1934年－秋田師範学校附属小学校へ入学。
- ・1942年－秋田工業学校第二本科電気科に進学。第二本科電気科は2年間の履修期間で、戦時体制に応じて1940年4月に増設され1945年3月に廃止された。
- ・1944年－秋田県立秋田工業学校を卒業直前に料亭での離散会で飲酒騒動のリーダーとして留年となる。
- ・1945年－秋田工業学校専修科電気科を卒業。本科電気科に編入
- ・1946年－秋田工業学校本科電気科を卒業。秋田製鋼に入社。勤務のかたわら、秋田市にモダン・ダンス研究所を開いていた増村克子に師事し、ノイエ・タンツ(ドイツのモダン・ダンス)を学ぶ。

- ・1947年－上京する。
- ・1949年－「第1回大野一雄舞踊公演」(神田共立講堂)を観覧する。
- ・1953年－安藤三子舞踊研究所に入所。テレビ放送の開始とともに、テレビ・ダンスショー(安藤三子振付)に出演。
- ・1958年－舞台演出家今井重幸の命名により土方 巽 を名乗る。
- ・1959年－「第6回新人舞踊公演」(第一生命ホール)で「禁色」を発表。ジャン・ジュネの男色を主題とし、三島由紀夫の小説の題名を借用した作品。初めて津田信敏近代舞踊学校(津田舞踊塾)を訪れる。元藤燐子と出会う。
- ・1961年－「土方巽DANCE EXPERIENCEの会」(第一生命ホール)。初めて「暗黒舞踏派」を名乗る。
- ・1968年－「土方巽舞踏公演」(日本青年館)「土方巽と日本人-肉体の叛乱」を演出・振付・出演。元藤燐子と結婚
- ・1974年－目黒の自宅に「シアター・アスベスト館」を開設し、稽古場兼劇場とした(稽古場としては以前から使用)。
- ・1977年－大野一雄舞踏公演「ラ・アルヘンチーナ頌」を演出。その後の大野一雄の舞踏活動を基礎づける。ラ・アルヘンチーナ(1890-1936)はスペインの舞姫。1929年来日し、帝国劇場で公演した。「頌(しょう)」とは、「讃える」の意。
- ・1980年－「大野一雄はフランスのナンシー国際演劇祭に招かれ、「ラ・アルヘンチーナ頌」を踊る。大野の独創的な表現は西欧の同時代の芸術家たちに衝撃をもって受け入れられることになった。
- ・1985年－「東北歌舞伎計画1-4」と題した4度の公演のほか、アスベスト館での公演、地方での公演。
- ・1986年－東京女子医科大学病院にて肝臓ガンにより死去。享年57。



「肉体の反乱」1968年10月 日本青年館

参考資料 Wikipedia, 慶應義塾大学アート・センター「土方巽アーカイヴ」, 稲田奈緒美 論文

◆ 記事

赤川 均 (昭和41年電気科卒)
東京秋工会 副幹事長

K.F's Design History

右は1986年にデザインを手掛けた作品(製品)。リラクゼーションを目的とする椅子型の体感音響装置。音響(音楽)療法やリラクゼーションルームなどに活用され、また著名な医師たちにより設立された日本バイオミュージック学会で使用され、医療の分野において話題を集めた。同製品は現在は生産されていないが、体感音響技術関連の事業は現在も健在、思いもよらない分野でその効果を発揮している。

プロダクトプランナー&デザイナー **松木 一美**
(昭和48年機械科卒)

P&D_KFworks
プランニング&デザイン ケーエフ・ワークス

埼玉県新座市野寺5-6-20 〒352-0034
携帯.090-3049-7291
E-mail kf-works@sea.plala.or.jp

**Bodysonic Reflesh-1
Design at 1986**